

## 第2回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会 議事録

日 時	令和3年9月10日(金) 13時30分～16時00分
場 所	オンワード樫山仙台ビル・10階ホール
出席委員	馬場正尊委員(座長)、岩間友希委員、太田伸志委員、菅野永委員、小島博仁委員
ゲストプレゼンター	高橋三也氏、宗片恵美子氏
仙台市出席者	浅野吉昌まちづくり政策局次長、岩城利宏財政局理事兼次長 反畑勇樹都市整備局次長、佐藤秀樹建設局次長
基本設計受託事業者	小林一文氏、千葉学氏
事務局	PwCアドバイザリー合同会社、 菅原大助仙台市財政局本庁舎建替準備室長、その他職員

### 1 開会

事務局 ただいまより、第2回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会を開会する。本日の検討会は、新型コロナウイルス感染拡大により、市が調査業務を委託するPwCアドバイザリー合同会社がオンライン参加となっている都合上、市が代理で司会を行う。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、委員のみなさまのお席の間隔を広げるとともに、マスクの着用や入室時の手指消毒をお願いしている他、報道機関の皆様は、受付での健康状態の確認と、お名前とともにご連絡先のご提供をいただいている。

### 2 委員等紹介

事務局 本日は、時間の都合上、お手元の資料1を委員のご紹介に代えさせていただく。馬場委員については、前回の検討会で座長に選任されているため、引き続き座長をお願いしたい。なお、姥浦委員、大庭委員については、本日欠席となっている。

また、大型イベントの開催や防災対策の観点でお話を伺うためにお呼びしたゲストをご紹介させていただく。

(ゲスト紹介)

事務局 仙台市からも前回同様に4局の次長が参加するほか、基本設計受託事業者である石本建築事務所・千葉学建築計画事務所設計共同企業体からも、小林氏、千葉氏に引き続き参加いただいている。

### 3 プレゼンテーション(要旨のみ)

- ・オリエンテーションとして、第1回検討会から抽出したキーワードをもとに、第1回検討会の振り返りについて、また、第2回検討会のゴールである本事業の空間の配置・レイアウト案を出すための討議方法について、馬場座長より説明。
- ・資料2-1「各種ヒアリング概要」、資料2-2の「低層部に関する設計要件(案)」

及び資料2-3の「勾当台・定禅寺通周辺の各プロジェクトからのご意見」について、仙台市財政局本庁舎建替準備室の菅原室長より説明。事業者ヒアリング結果等をもとにまとめた低層部に関する主な設計要件について、プレゼンを行った。併せて、定禅寺通活性化検討会及び勾当台公園再整備検討懇話会からいただいている意見と、本日欠席の姥浦委員から、両事業の委員としての立場で頂戴したコメントを紹介。

- ・仙台・青葉まつりを行う際の低層部及び庁舎内広場において求められる施設要件について、高橋氏より説明。屋根付き広場及び屋外トイレの必要性、山鉾搬入時の施設要件、舗装の仕様及び市民広場との一体性等についてプレゼンを行った。
- ・一時避難所の観点から、新本庁舎で求められる施設要件及び取組みについて、宗片氏より説明。施設要件については、外国人を含む多様な避難者に安心安全を提供すること、及びパーティション・更衣室や多目的トイレ等の避難者が必要とする具体的な設備について言及された。また、平時から防災に対する取組みを行うことの重要性についてプレゼンを行った。
- ・資料2-4の「本庁舎建替基本設計 低層部検討案」について、千葉氏より説明。各種ヒアリングの結果を受けて作成された設計図案の3案（A，B，C案）の各特長をプレゼンした。
- ・資料2-5の「エリアから見た低層部のあり方」について、小島委員より説明。本エリアの歩行者動線や自動車交通量を踏まえた一番町・定禅寺通から市民広場・本庁舎への人の流れが少ないという現状の課題について言及し、新本庁舎においては公民連携による運営を行うことで、新本庁舎だけでなくエリア全体の価値を高めることの重要性についてプレゼンを行った。

#### 4 ディスカッション

馬場座長 ここからディスカッションをさせていただきたい。本日は皆で模型を前にディスカッションをするが、まず、千葉氏に各模型について教えていただきたい。

千葉氏 プロポーザル段階では、南から北まで連続性がある広場のA，B案をメインに検討していた。しかし、設計を進めるうちに大きな広場を囲う構成も素晴らしいと考える一方で、まちに対して閉鎖的な庁舎だけの広場になる可能性が懸念された。そこで、A案は1階からはどこからでも入れる分散配置とし、2階は使い方に応じてフレキシブルに仕切ることができる集約配置とした。B案はA案の逆の考え方で、2階を分散配置に、1階を集約配置にしている。しかしこれでも閉鎖的な案であることから、北の交差点や南の市民広場に大きく開かれ、広場が数珠つなぎになるC案を作成した。仙台駅東西自由通路の幅は16m程度。現在の設計案では、広場の幅は幅20m程度であり、仙台駅東西自由通路よりは少し広いイメージである。みせや広場の活動によって必要な幅は変わるかと思うが、目安としていただけると良い。

岩間委員 歩いてくる人々は一番町の方からゆっくり歩いてくる想定だが、北の郊外から車で来る方も多いと考えている。車で来る来庁者は、どうやって建物全体に到

達するイメージか。

千葉氏 駐車場計画は、勾当台公園地下駐車場はそのまま活かし、新本庁舎に新たな駐車場（平面、地下）を設置することになっている。勾当台公園の地下駐車場は現状を生かしつつ、新本庁舎敷地内の新たな地下駐車場と連携することを想定している。

岩間委員 車で来庁した人の動線としては、駐車場で車を降りた後は、一度地上に出て1階の入口から入ることになるのか。

千葉氏 利用者にもよるが、おっしゃる場所から入ることもできる。地下鉄の出入口の近いところに上下をつなぐエレベーターや階段を設ける予定で、そこから地上に直接出てくることできる。

太田委員 東北学院大学出身で仙台市に一時期住んでいたが、仙台市のリアルな生活を知っている身としては、新本庁舎が目指している一番町からのつながりが今現在はまったく感じていない。仙台三越あたりが人が北に向かう限界ラインで、本庁舎には用事がある時だけ来るような状況だと理解している。一方、仙台駅東西自由通路は、東と西に行く理由はあるため、東西のつながりは成功していると考えており、仙台市民はやはり行く目的があればその場所に行くのだと実感している。したがって、奥に本庁舎があつて道があれば、行かざるをえず、行く目的が作れると良いだろう。また、何らかの事情があるのだろうと理解はしているが、新本庁舎建設時に現本庁舎を残す都合があると聞いている。本庁舎から見たときに、現庁舎ではなく開かれた空間とつながっている方が良いと考えている。

千葉氏 現本庁舎を残しながら新本庁舎を建てるため、南側にあまり余裕を取ることのできない計画になっていることは致し方ない。しかし前向きにとらえると、将来的には北側地区への展開も視野に入れた中継地点になる可能性も秘めており、より大きなエリアにおけるハブとして、今後の展開のための布石になると考えても良いだろう。また、この近辺は勾当台通に対して比較的横を向いている建物が多く、もったいないと感じている。一番町からの連続性はもちろん大事だが、東側へ顔を向けて開けた空間を作ることも大切だと考えている。

太田委員 将来像まで考えていただきながら検討いただけていることはうれしい。一方、やはり勾当台公園市民広場がある南側との連続性は重要であると考えており、本気で考えていかないといけない部分だと認識している。

馬場座長 都市の軸線について、本検討会をきっかけに、いかに再構築していくかが大事だと考えている。次回の検討会テーマになるが、定禅寺通を含めて一体的なマネジメントの考え方が大事になってくる。

小島委員 勾当台エリアビジョン策定検討懇話会の議事録を見ると、本庁舎の低層部と一体的に議論したいと話されており、一体的利活用のために、市民広場、勾当台公園及び低層部がどうあるべきかを議論したいという声が出ている。「都市に

開かれた庁舎」という哲学的なテーマで設計するにしてもなかなか難しいため、そういう意味では、我々が市民感覚でどうあるべきかを発言することは大事なのではないか。先ほどのプレゼンテーションでお伝えしたとおり、新本庁舎で留まるのではなく、新本庁舎を起点にしてにぎわいが波及するための新本庁舎をつくっていくことが大事だと考えている。現本庁舎を残しながら建設するという制約はあるが、それを踏まえて議論できたらよい。

馬場座長 その点、C案は新しい動線を生む装置を新本庁舎でつくれるのではないか。

岩間委員 馬場座長や小島委員が言うように、新しい動線を生むという視点が大事だと考えているため、C案が良いと考えている。個人の感覚ではベビーカーを押している人は一番町のアーケードを歩かない傾向にあると感じており、その理由は、駅前に行くほど若い人が多く、ベビーカーを押して歩けるような場所ではないからだと考える。例えば、建物のつくり方によっては、郊外に住む車で来たお母さん達が、北から一番町に流れる動きができるかもしれない。堤通雨宮町にはイオンも新設されるため、イオンに行くついでに新本庁舎に寄るといった流れができると面白い。

馬場座長 現在はC案が良いという意見が多いと感じるが、A、B、C案について他には意見はあるか。

浅野次長 勾当台・定禅寺通エリアビジョンを策定する中で、本庁舎部分のご意見もいただいております。そこでは市民広場と現本庁舎、定禅寺通が、現状ではぶつぶつと切れているという話が出た。まずは繋がりを重視すべきということで、南北のつながりについてはぜひ重視してほしい。  
また、現状では（本庁舎の）北側の開発等については明確ではないが、C案が他と比較して北側に伸びていくようなつくりになっており、将来的なことを踏まえると、発展性のあるC案が個人的には良いと考えている。  
また、地下鉄から登るときの図面について、広さのイメージをつかめなかったが、地下鉄から上がってきたところの目の前が壁ではなく、広がりがある部分ができると良いと感じた。

反畑次長 個人的にはC案が良いが、2階の考え方はB案の方が良い。南からの動線は多く議論されているが、せつかく敷地内広場をつくるのであれば、東二番丁通側から入りやすい設えや仕掛けがあると良い。そして、2階のデッキをどうするか、もう少し議論が必要ではないだろうか。C案の2階だと単なる通路になってしまいそうだが、できれば緑化等の滞留空間があると良いと考えており、2階のデッキはB案の方が優れている。2階への誘導はという観点からは、C案のような大階段があっても良い。C案の階段も単なる舞台という使い方だけではなく、腰を降ろして座れるような使い方がされると良い。

千葉氏 2階は通路の役割も大きいですが、滞留空間があると広場を見下ろすことができ、イベント時の観客席にもなる可能性があるため、滞留空間があると確かに良い。2階に上がる動線も重要で、まだ設計チーム内では議論されているが、プロポーザル段階ではスロープでゆっくり散策できる設えを考えていたものの、

現行の設計案だとスロープで上がりきるのは難しく、エスカレーターやエレベーターにする可能性も考えている。コンテンツに応じてどこに動線をとると良いか考えていきたい。

馬場座長 ゲスト参加者からもぜひご意見をいただきたい。

宗片氏 C案が良いと考えているが、車いすを使う方、ベビーカーを押す方、お年寄りも入りやすい動線が必要である。本庁舎は窓口を利用する方が来ることが基本である。しかし、現在は窓口を利用する方しか来ないため、どういう形で市民にプラスアルファの部分を楽しんでもらうかを工夫することが大事だと考える。

高橋氏 中庭風にパティオのような設えになれば、面白い空間になると考えており、3案はどれも良い。屋外広場の雨の吹込みが心配なので、そこは配慮してほしい。  
また、まつりとは関係ないが、新本庁舎に商業施設が必要なのか理解できていない。横浜市役所に商業施設が入っているが、横浜市の人口規模と比較すると新本庁舎に必要なかは疑問である。

千葉氏 必ずしも商業施設ではなく、この機能をどうしていくかを議論することが大事と理解している。

馬場座長 商業施設というよりも、市民や企業が活動するための空間にすることを考えており、店舗というよりも、どういうイメージが良いかをこの後ディスカッションしたいところである。委員の皆様イメージビジュアルを持ってきていただいているため、イメージビジュアルを設計図に貼り付けていきながらディスカッションしたい。風景のイメージをたくさんお話いただいたこともあり、まずは岩間委員よりイメージビジュアルをご紹介いただきたい。

岩間委員 せっかくの市民活動のためのスペースということもあり、市民活動だけでなく社会貢献につながる企業も使える空間になれば良いと考えている。  
まず、カフェは入っていて良いと考えているが、どこにでもあるグローバルチェーンの様なものがあってほしいというわけではない。イメージビジュアルのカフェは、お母さんたちにとってキッズフレンドリーでゆったりできるカフェになっている。  
また、現市役所だと困った時にどこに行けば良いかわからないため、市役所で働いている人に自然に聞くことができる場所があると良い。イメージビジュアルではフリーアドレスのオフィスの写真を持ってきているが。  
さらに、ワークスペースやこの人に聞いたらわかるというコーディネーター機能もあると良い。  
最後に、社会貢献をする企業と連携ができる場所があると良い。市民協働が前に押し出されているが、それだけでなく営利だが社会貢献をしていく企業の方と連携できる空間をつくってほしい。

千葉委員 異なる広場が連鎖的につながっているため、南側は全部市民広場に属している

ような空間、北側は緑化してくつろげる広場というような異なる性格を使い分けるような考え方も良いかもしれない。また、この新本庁舎にしかないようなカフェを芝生のある公園のような広場に設置しても良い。社会貢献をする企業と連携できる空間については、高層棟の下に様々な団体が働いているような風景を作れたら面白い。

馬場座長 ミックスゾーンという形で、行政と民間の取組みが溶け合う空間があっても象徴的である。また、カフェの整備に関しても、子供が楽しめる場所を公募条件にすることもできるだろう。このような形でイメージビジュアルについてディスカッションしていきたいが、他の方々はいかがか。

菅野委員 学生も社会人も、家庭と職場だけの交流になりがちで、コロナ禍で2年間ほど在宅勤務になってから、特に社会と地域とのつながりが減ったように思う。現在、理由もなくたたずめる空間がないため、なかなか出会えない人と出会える空間や、人と出会うことで「自身も何か頑張ろう」と思える空間があると良い。以前行われていた定禅寺通にテラス席を設置する社会実験が非常に良かった。第1回検討会でも話題に出した福島県の須賀川市役所にもテラス席を設けており、様々な世代の方が話している光景が良いなと思っている。飲食やワーキングスペースのような空間で上記のような人と出会える空間があると良い。

また、1階にチャレンジショップのような機能を設置し、挑戦したいがゼロベースで始めることが難しい人たちを支援する空間があると良い。現在も仙台市で様々なプログラム支援を行っているが、空間もあわせて、地域でチャレンジする人を支援できたら良い。

小林氏 店の一角を定期的に貸すことや、1階の屋根付き広場に車ごと入れて店舗をつくることもできるかもしれない。定期的に店舗を変えていくようなチャレンジショップを設えることも考えられる。

太田委員 個人的に歴史が好きなので、A、B案の方が外敵から守りやすい設えになっている分、外から内に入りやすいと思うのでC案の方が良い。

シームレスが大事だと考えており、東京でも下町は職人を目指して頑張っている風景があるが、一方、東京の渋谷は若者のまちというようになってしまっており、すべての市民がシームレスに、例えば高齢者が若者に関わり、若者も高齢者に学べる空間であるべきだと考えている。東京と違い、仙台はまだこのシームレスなまちづくりの構築が間に合うと思っている。

建物の屋上に公園がある、渋谷区の宮下公園のように、上に行く理由があると人の流れを作れると思っている。

ここにステージがあるとなると、イベントの時しか使わなくなることも考えられる。ステージとして利用してもいいというような感じが設えられると良いのではないか。

商業施設をつくるかについて話題が出たが、飲食のための店舗ではなく、コーヒーを飲みながら縁側でゆったりする空間をつくるための飲食店を入れることを新本庁舎では検討されているため、中で休むこともできるシームレスな空間があると良い。

また、3年前に息子が生まれてから、子供向けの場所に行くことがあるが、そこに行く子供がいる親しいない。身近に子供がいる空間は学びが多いと実感しているため、子供が遊べるシームレスな空間があると良いと思った。

千葉氏 色々な活動の場が隣り合わせになっていると良いと思った。コワーキングスペースの隣に子供が遊べるスペースがあるという空間が随所にあると良い。

太田委員 政治家等が考えを主張して叩かれたりすることがあるが、「こういう考え方もあるんだ」と人それぞれの考え方に気づく場所がたくさんあっても良いと考えている。オンラインの会議中の後ろで子供がいると、この人と仕事したいと思うことがある。

馬場座長 完全な民間施設だと、今日おっしゃってくださったような空間は作りにくいが、市役所だからこそ作れるものもあるかもしれない。

事務局 姥浦委員から4枚ほどイメージビジュアルをいただいているので、代わりに紹介させていただく。  
まず1枚目は、祝祭の場にもなるミュンヘンの市役所である。  
2枚目は、長岡市のアオーレ長岡で、イベントブースが連なる空間を作れたら良いという提案である。  
3枚目は、ケルンの市役所で、1階ホールに赤い柱が並ぶ長い空間があり、政策課題に関する情報が掲示されている。市役所を使う多くの人を通る道であるため、多くの市民が市の政策に触れることができる。  
4枚目は、メディアテークのように、タウンミーティングとして議論する場である。議論の後に飲み会ができたらいよいよというご意見もいただいている。

小島委員 広場空間を様々なシチュエーションに使うことができるC案が良いと考える。C案には大きい空間が4つあり、これをどう使い分けしていくかが大事だが、市OBの意見としては、民間運営でないとこれは実現できないと思っている。市民が行きたくなる新本庁舎をつくるためには、民間で可変性ある形で運営してもらうことが大事である。  
馬場座長が3年前に市民広場でライブラリーパーク（90㎡程度）の運営に関わっていたが、その周辺ではマルシェやトークショーを開催していた。ライブラリーパークを新本庁舎低層部と同じ縮尺で見ると、新本庁舎の屋内空間にすっぽり入れることができる。計画されている屋内空間はかなり広いと感じており、この空間をどのように使うかを計画しないと寂しい空間になってしまうのではないかと。  
また、ポリシーラボやクロスメディアラボで議論した後に、議論の延長として国分町に行くのも良いが、普段はコワーキングスペースにもなるようなテラス席があると良い。市職員は恥ずかしがり屋な方が多いため、外から見えないように植栽で歩行空間と分けると良い。  
さらに、ポリシーラボやクロスメディアラボで出たアイデアをチャレンジショップで行い、より広く展開するなら定禅寺通で店舗を持つという繋がりができると良い。

千葉氏 カフェは当たり前の機能ではあるが、可能性がある場でもある。カフェが広場近くにあれば、バスを持つ人や働いている人にとってもハブになるような空間になるかもしれない。

馬場座長 仙台市のアイデアもぜひ伺いたい。

事務局 バス待ち空間では八戸市のマチニワをイメージしており、屋根付きの広場に大型ビジョンや椅子・テーブルがあり、時間を潰せる空間になっている。また、時刻表やイベント等の情報発信を受け取れる空間があっても良い。  
アオーレ長岡や横浜市役所にも椅子・テーブルを設置して自由に過ごせる場がある。また、横浜市役所のアトリウムには地下鉄に直結したエスカレーターで来ることができ、雨にぬれずアクセスできる。  
緑化空間のイメージとしては、横浜市のグランモール公園である。ここは、植栽があれば良いだけでなく、くつろぐ空間がある良い事例。また、本市の太白区役所で実施済みだが、プランター等を市民ボランティアで植えてもらい、愛着を持ってもらう仕掛けもできるのではないかと。  
仙台市中心部（芭蕉の辻）にある CROSS B PLUS は、カフェでありながら、情報発信や会議・イベントができる空間となっており、こういった機能があると良いと思う。  
また、横浜市役所には、低層部に横浜発祥の店を入れたフードコートやブックカフェがあり、こういった取り組みも面白い。  
また、低層部のカフェ等のイメージで、木造カフェの写真を用意した。このような木造カフェもあると良い。  
コワーキングスペース、シェアスペース、フューチャーセンターの機能があると良いと考えている。  
その他、全体の民間運営の事務室、ワークショップ窓口、悩み相談窓口もあると良い。

馬場座長 仙台市がイメージしている風景も先程の皆さんの議論と似ていると思った。バス待ち空間など公共サービスとの連続性が語られていたのが新鮮だった。また、新しい人の集まり方の話が多かったという印象。

千葉氏 人がたたずめる場所は、交差点に面したところや、南西側の角とかにあると良いと思った。また、市民が関われる仕組みも重要な視点だと感じた。

馬場座長 色々な意見が出たが、ほかに伝えておきたいことがあればぜひお願いしたい。

岩間委員 6年前に東京から引っ越してきたが、当時は、仙台市の青葉区と泉区の違いが不動産情報サイトでしか分からなかった。仙台市は通勤族が多いが、右も左も分からずに来る方は多いと思う。例えば、市役所の1階に来ると、泉区はこんな町と分かる情報発信があると良いのではないかと。この情報がバス待ち空間にもあれば面白い。

馬場座長 クロスメディアラボというと、かっちりした空間イメージがあるが、岩間委員がおっしゃるような小さな工夫がたくさんあるような空間もクロスメディアラ



ボに当てはまるだろう。

- 反畑次長 バス待ち空間を用意する際、ギャラリーと接点を持たせる仕掛けがあると良い。また、緑化計画は今後検討することになると思うが、芝生広場をどこにするかが重要になる。北側は日が当たらなくて雪が解けないため、冬の天候の厳しさを踏まえて検討する必要があると考える。
- 千葉氏 計画上は、南側にボリュームがあるため、北側が陰になる。緑化計画は現在検討しているところだが、日当たりが良いところに設置したい。C案は緑化できる場所が多くあるため、使い方と併せてどの時間帯にどのようなプログラムがあるか等を踏まえて計画したい。仙台の並木も大事であるため、大きな都市スケールを考えたうえで検討していきたい。バス待ち空間と同様に大事になりそうである。
- 小島委員 他事例を見ると、一定程度の空間がないと芝生広場でも寝っ転がることができず、寒さ対策等の制約があるとしても、くつろいでいる人がたくさんいる風景を作れると良い。
- 岩城次長 会議の都度、財政面の話をしているが、念頭に置きながら議論したい。飲食店の話があったが、新本庁舎内への飲食店の設置は、食堂など市職員の福利厚生面の面もあり、飲食店は一定必要ではないかと考える。また、南北の空間に、人が集まることを想定したとき、屋根だけが良いのか、閉じた方が良いのか、災害時の使用方法も含め考えた方がよい。スタートアップのイベント発表の場にするアイデアも良いと思うが、特定の利用の占用的なスペースではなく、多目的な活用ができるスペースという形で今後検討を進めるべきと考えている。
- 佐藤次長 緑化の話をさせていただく。A、B、C案どの案も2階に行くと緑がないなと感じた。回遊性を考えた時、緑があると豊かな空間になる。また、新本庁舎の建物を見たときに、建物の壁面に緑があると豊かな印象を与える。緑化する空間においても市民活動の連携については必要であると考えている。
- 反畑次長 新本庁舎周辺にマンションが増えてきているため、子供連れの親子が公園やイベントに来た際に気楽に休憩するスペースがあると良い。シームレスな空間という話もあったが、ベンチ等を活用した休憩スペースをつくって、誰もが敷地内に入りやすい場所になれば良い。
- 小林氏 本日は多くの皆様から貴重な意見を伺うことができた。みち、みせ、ひろばの3つの要素を並べるだけでなく、それぞれの役割をもう一度見直したうえで新本庁舎低層部の在り方を考えたい。皆様からの意見をどこまで実現できるかわからないが、実現できればすてきな場所になると思う。
- 千葉氏 生の意見を多く聞けて大変貴重な機会になった。いただいた意見を整理して、十分に反映したい。
- 馬場座長 今後は、C案を基軸に検討が進んでいくことになる予定である。敷地内だけで

なく、勾当台公園に対しての連鎖性も考えて議論することができたのは良かった。第3回検討会では、本日議論した空間をどのように運営していくかという面で議論をしていきたい。

**5 公民連携検討会における今後の予定について**

事務局 次回の議題は資料3のとおり。また、本日いただいたご意見を踏まえ、基本設計の中間報告に向けて、低層部の配置等を精査したい。

**6 その他**

(特記事項なし)

**7 閉会**

事務局 以上をもって第2回仙台市役所本庁舎低層部等公民連携検討会を閉会する。

以上